

## 服で表現する

～自分を表すファッション～

美術教育監修・執筆

上野行一

自分が着る服にこだわりをもつ人は多いだろう。どんな服を選ぶかによって、それを着ている人のイメージも変わってくる。まさに服は「第二の皮膚(マクルーハン)」だ。今回は、服で表現すること、服が与える印象、そして服をデザインすることを学ぶ。

学習前  
チェック!

自分はどんな服を着ているのだろうか。クローゼットをのぞいてみよう。そこに収納されている衣服の形や色や素材など、そのデザインから自分と服とのかかわりを考えてみよう。

### 服で表現すること

人はなぜ服を着るのだろうか。服飾史ではいくつかの考え方があつた。風雨や外傷から身体を守る実用(保護)説、身体を飾りたいという本能による装飾説、原始信仰から起こつたとする呪術説などさまざまである。

一方、服を着ることは自分を表現する方法のひとつだということもできる。私たちが服を選ぶとき、形や色、着心地などにこだわりをもつのは、そのためではないだろうか。

### 服が与える印象

「どんなものを食べているか言ってみたまえ。君がどんな人間か言いあててみせよう」と言つたのは美食家で知られるブリア・サヴァランだが、同じことは人が着ている服にもいえそうだ。

たとえば赤い服を着ている人から積極性や情熱などが感じられるのは、色から感じられるイメージが転移し、その人自身のイメージとして感じられるからだ。服が与える印象を考えることは、自分をどう表現するかということにつながる。相手にどんな印象を与えたいかを考えて、服をつくったり、選んだりすることが大切だ。

### 服をデザインする

服のデザインは形と色、素材によって決まる。ボタンやファスナーなどの付属品が重要な要素となる場合もある。番組では形を考え、素材を決め、色を選ぶというデザインの手順を示すが、表したいイメージや目的によって色から決めたり、素材から考えたりする。素材を決めた段階でもう一度形を考え直すこともある。

形と色と素材を手がかりにして、自分が表したいイメージがうまく具体化されるように試行錯誤することがデザインの学習で最も大切なことである。